

# コミテク研究所・研究成果報告書

**【2023年度】**

コミテク研究所（コミュニケーション&テクノロジー研究所）

2024年3月31日

## はじめに

「コミュニケーション&テクノロジー研究所（略称 「コミテク研究所）」は、テクノロジーを活用した教育や「学び」に関する共同研究の「場」として2023年4月に開設されました。

主な活動としては、教育や「学び」に関する共同研究、若手研究者の研究支援、教育や「学び」に関する書籍出版などがあげられます。

「コミテク研究所」の沿革としては、以下のとおりです。

1997年 渡部を代表として「コミュニケーション障害とテクノロジー研究会」が発足

第1回研究集会を国立オリンピック記念青少年センターで開催

その後、東北大学大学院教育学研究科の渡部研究室ゼミ、東北大学大学院教育情報学研究部の渡部研究室ゼミと合同で、毎月1回の研究会を実施

2017年 発足20周年記念シンポジウム

「新しい時代のコミュニケーションとテクノロジー、学びへの応用」を、札幌市産業振興センターおよび北海道真駒内養護学校で開催

2023年 代表の渡部が東北大学を退官するに当たり「コミュニケーション障害とテクノロジー研究会」を「コミュニケーション&テクノロジー研究所（略称 「コミテク研究所）」に改名

「コミテク研究所」のメンバー（2024年4月時点）は、以下のとおりです。

代表：渡部信一（東北大学名誉教授・博士（教育学））

副代表：藤野博（東京学芸大学教授・博士（教育学））

副代表：植木克美（北海道教育大学教授・博士（教育情報学））

協力研究員：中島平（東北大学准教授・博士（情報科学））

協力研究員：三浦和美（東北福祉大学教授・博士（教育情報学））

協力研究員：矢吹知之（高知県立大学教授・博士（教育情報学））

協力研究員：和史朗（東北福祉大学准教授）

事務局：金子弘行（株式会社ディーアイケイ 取締役会長）

「コミテク研究所」では現在、以下のプロジェクトが進行中です。

■ 「Web (AIおよびメタバース) を活用した教師の再教育」プロジェクト

メンバー：植木克美（リーダー）、中島平、渡部信一、金子弘行

外部資金：科研費（2022～2025）

■ 「特別支援教育現場におけるAI活用」プロジェクト

メンバー：藤野博（リーダー）、渡部信一、金子弘行

■ 高等学校「情報1」の授業研究プロジェクト

メンバー：渡部信一（リーダー）、植木克美、金子弘行

この「コミテク研究所研究成果報告書」では、2023年度の研究成果をまとめて報告いたします。

本研究所の研究活動について、皆様方の忌憚のない御批正、御助言を賜れば幸甚に存じます。

2024年3月

「コミュニケーション&テクノロジー研究所（略称 「コミテク研究所」）」代表

渡部信一

# 目次

## 研究成果

### 1. 書籍出版

渡部信一 (2023) : 「A I = 知」への逆襲 ―日本文化論の視点―. 大修館書店.

### 2. 学会発表

北海道心理学会第70回大会 ポスター発表

日程 2023年11月11日 (土)

会場 札幌学院大学新札幌キャンパス

日本発達心理学会第35回大会 ポスター発表

日程 2024年3月7日 (木) (予定)

会場 大阪国際交流センター

### 3. 中間報告会

第1回中間報告会

日程 2023年11月7日 (火)

会場 北海道教育大学札幌駅前サテライト (対面及びオンラインのハイブリッド開催)

エデュサポネットメンバーを対象にした中間報告&ワークショップ開催

日程 2024年2月12日 (月・休日)

会場 札幌市産業振興センター (対面及びオンラインのハイブリッド開催)

## 第2回中間報告会

日程 2024年3月21日（水）（予定）

会場 オンライン開催

## 4. リーフレットの作成

エデュサポネットリーフレット2023年度版の作成

## 1. 書籍出版

渡部信一（2023）：「AI = 知」への逆襲 ―日本文化論の視点―。大修館書店。

# 「AI = 知」への逆襲 ―日本文化論の視点―

渡部信一著 大修館書店 1,760円 2023



[アマゾンで購入する](#) ▶

本書で着目するのは、岡倉天心『茶の本』（1906年（明治39年）発刊）、柳田国男『遠野物語』（1910年（明治43年）発刊）、そして九鬼周造『「いきの構造」』（1930年（昭和5年）発刊）である。ここで私が重要であると考えるのは、この3冊の著者が共通して「西洋・近代」のこと（例えば、それが合理的であり、効率的であり、便利であること）を十分に理解している知識人だったことである。感情的に「西洋化・近代化」を否定したり、かたくなに「日本の伝統文化」だけを守りその他を排除しようとしたのではない。実際に自分自身も当時の近代化した社会の中で官僚や大学教授などの高い地位を確立した上で、あえてそれまで日本が積み重ねてきた「文化」に着目し、検討しているのである。つまり、これらの著書は、近代化・西洋化が急速に進む時代背景の中で「人間にとって何が大切か？」について「日本文化」というひとつの視点から深く考え抜いた著作なのである。

私は、このような「日本文化論」を検討の出発点とすることにより、今の私たちにとっても「何か大切なもの」が見えてくるかもしれない、そしてAI社会における「知」のあり方を見いだすことができるかもしれない、と考えたのである。

（「はじめに」より）

## 2. 学会発表

北海道心理学会第70回大会 ポスター発表 日程 2023年11月11日(土)

会場 札幌学院大学新札幌キャンパス

### 小学校若手教師支援 Web サイト「エデュサポネット」の開発

植木克美\*・中島 平\*\*・山本愛子\*\*\*・渡部信一\*\*

(\*北海道教育大学・コミュニケーション&テクノロジー研究所)

(\*\*東北大学・コミュニケーション&テクノロジー研究所) (\*\*\*北海道文教大学)

**研究目的** 我々は、若手教師が他の教師と対話しながら経験知を体得する学びの機会を保障し、世代の異なる教師たちがいつでもどこからでも気軽に主体的・自律的に学び続けられる環境を整備することを目指している(植木,2020)。ここでは、小学校若手教師の学びを支援する Web サイト「エデュサポネット Educator Support Network」<https://www.edusupp.jp> の質を検討する。

Web サイト「エデュサポネット」は2つの学習コンテンツ、① 若手教師に先輩教師の経験知を伝える教材コンテンツ「検索による情報提供(Q&A及びエピソード)」、② 異世代教師たちが「現場の経験」を交流するオンラインワークショップで構成されている(図1)。

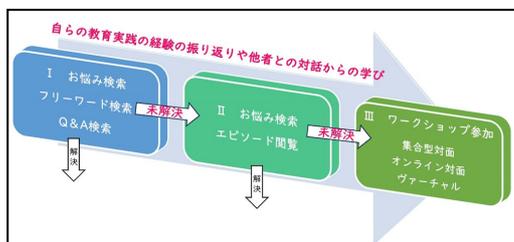


図1 Webサイトの目標

**研究方法** 「エデュサポネット」の質を、モバイルアプリ評価スケール(Mobile Application Rating Scale: MARS)の日本語版(Yamamoto et al., 2022)を用いて評価し検討した。評価者は、エデュサポネットの研究協力者である主として小学校教師たち22名。2023年2月~3月に、評価を実施した。

**結果** 客観的品質の愛用度及び見た目・デザイン性は、概ね肯定的な評価が得られた。機能性(ナビゲーション)は、習得しやすいと評価された一方で、混乱する、習得に時間がかかると評価された(図2)。また、情報は、多くの情報があるもののバランスに欠ける、わかりにくいと評価された(図3)。なお、主観的品質、知覚的なインパクト(図4)は概ね肯定的評価であった。

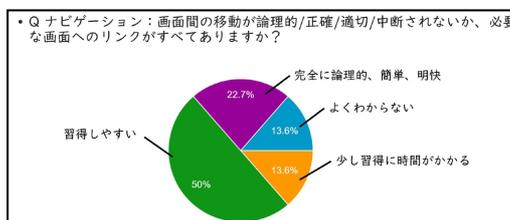


図2 客観的品質 機能性の結果

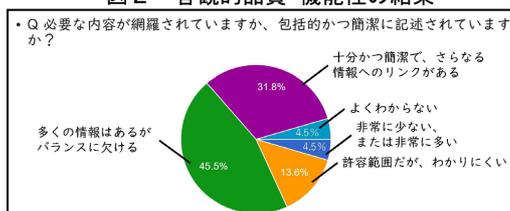


図3 客観的品質 情報の結果

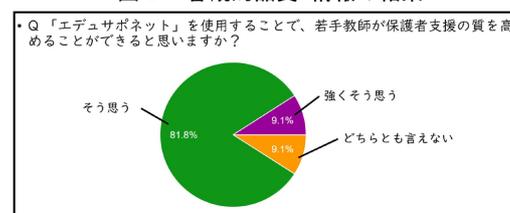


図4 知覚的なインパクトの結果

**結論** 若手教師の学びを保障する、そして、Web上の学校教師たちのネットワークの構築に寄与できる可能性を、「エデュサポネット」が有することがわかった。なお、ユーザビリティ(使いやすさやわかりやすさ)の向上が今後の課題であり、フリーワード検索ページにおける、検索ワード、Q&A、エピソードの紐づけを再検討する必要がある。

#### <参考文献>

植木克美(2020) 熟達教師の「経験知」を Web で若手教師に伝える 渡部信一(編) AI時代の教師・授業・生きる力 (pp.24-46) ミネルヴァ書房

Yamamoto et al., (2022) Japanese Version of the Mobile App Rating Scale (MARS): Development and Validation. <https://doi.org/10.2196/33725>

附記 JSPS 科研費 19K02995 及び 22K02797 の助成を受け、北海道教育大学研究倫理委員会の承認を得た。

## 小学校若手教師支援を目的とした ヴァーチャルワークショップ開発の試み

○植木克美<sup>1</sup>・中島平<sup>2</sup> #・山本愛子<sup>3</sup>・渡部信一<sup>2</sup> #

(<sup>1</sup>北海道教育大学/コミュニケーション&テクノロジー研究所・<sup>2</sup>東北大学/コミュニケーション&テクノロジー研究所・<sup>3</sup>北海道文教大学)

**研究の目的** 本研究は、小学校若手教師支援を目的としたウェブサイト『エデュサポネット』<https://www.edusupp.jp> 開発研究の一部である(植木, 2020)。『エデュサポネット』は「検索による情報提供(Q&A・エピソード)」と「ワークショップ参加」の2段階から構成されている。ワークショップの開催方法は、「集合型対面ワークショップ」「会議アプリケーションを用いたワークショップ」, 「メタバースを用いたヴァーチャルワークショップ」(VRワークショップ)の3つを検討している。今回は特にVRワークショップを取り上げ、この開催方法の質的評価を行った。

**研究の方法** VRワークショップでは、GAIA TOWN (GAIALINK INC.) を使用した(図1)。GAIA TOWNは音声マイクを使って音声言語コミュニケーションと、アイコンをクリックし「イライラ」等の感情をアバターに表出させること(エモート)で非言語コミュニケーションをとれる。今回のワークショップは「保護者対応の経験交流」について行った。研究協力者の小学校教師等22名に、VRワークショップ参加後、アンケート方式でVRワークショップの評価項目に回答を求めた。ここでは、日常の対面コミュニケーションとVRワークショップでのアバターを使ったコミュニケーションの違い等を質問した自由記述の回答を分析した。VRワークショップを2022年10~11月に実施した。

**結果と考察** 音声を出力できなかった1名の回答を除外し、21名分を分析した。本研究では、VRワークショップは「初めの顔合わせや、交流するには有効で、オープンな会話に向いている」ことがわかった(図2)。具体的には、肯定と否定の両方の評価があった。まず、否定的評価には、どう感じているのか?等、「コミュニケーションの不全感」があった。これは、VRワークショップ参加の「経験の積み重ね」と「エモート操作の習熟」で緩和できるが、エモートでは複雑な感情表現の難しさが残る。一方、肯定的評価にはVRワークショップは顔出しがなく適度な距離感がある「気軽」で「アバターを使う安心感」がある。そして、実際に部屋にいるような「没入感・臨場感」があった。つまり、VRワークショップは初めの顔合わせや、日常的な交流等に適する。今後は、参加者の条件に合わせて3つの開催方法をどのように選択・アレンジしていくかを検討する必要がある。



図1 VRワークショップ  
画像提供 © Virbela 日本公式販売店  
株式会社ガイアリンク

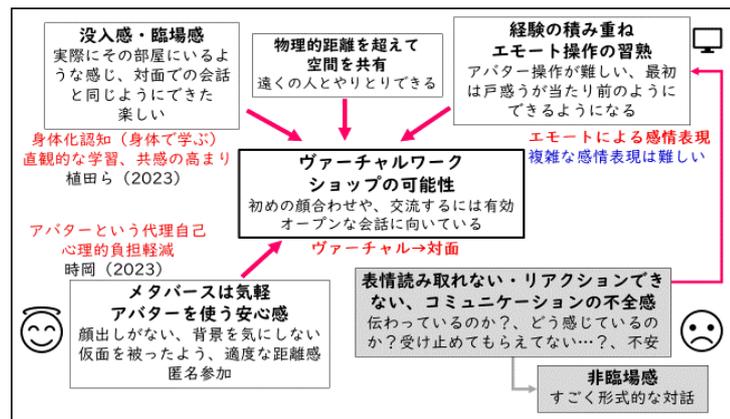


図2 VRワークショップの可能性

**文献** 植木克美(2020)熟達教師の「経験知」をWebで若手教師に伝える、渡部信一(編)AI時代の教師・授業・生きる力(pp.24-46) ミネルヴァ書房

**附記** JSPS 科研費 19K02995 及び 22K02797 の助成を受け、北海道教育大学研究倫理委員会の承認を得た。

# 現職教師に対する再教育のための 「オンラインシステム」の構築と効果検証 第1回中間報告会

## 小学校若手教師支援を目的としたウェブサイト開設の検討

2024/11/7 (火) 北海道教育大学札幌駅前サテライト&オンライン

科学研究費 基盤研究 (C) (一般)  
22K02797 研究期間2022年度~2025年度

北海道心理学会第70回大会 一般研究発表午後 ポスター発表予定  
2023年11月11日(土) 13:00~13:50

## 小学校若手教師支援を目的とした ウェブサイト開設

モバイルアプリ評価スケール (MARS) による検討

植木克美\*・中島 平\*\*・山本愛子\*\*\*・渡部信一\*\*

(\*北海道教育大学・コミュニケーション&テクノロジー研究所)

(\*\*東北大学・コミュニケーション&テクノロジー研究所) (\*\*\*)北海道文教大学)

2

## 背景

- 中央教育審議会は、「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの実現に向けた「質の高い有意義な学習コンテンツ」のポイントとして、教師自らの教育実践の経験の振り返りや他者との対話から学ぶといった「現場の経験」を含む学びが提供されていることを挙げています(中央教育審議会, 2022)。
- 我々の研究チームは、若手教師が他の教師と対話しながら経験知を体得する学びの機会を保障し、世代の異なる教師たちがいつでもどこからでも気軽に主体的・自律的に学び続けられる環境を整備することを目指します。そして、若手教師のための「オンラインシステム」を活用した学びを構築することを目的とします(植木, 2020)。

3

- 目標は、小学校若手教師に学びを保障するために、異世代教師たちが「現場の経験」を交流できる学習コンテンツをつくることです。
- ① 若手教師に先輩教師の経験知を伝える教材コンテンツとして「検索による情報提供(Q&A及びエピソード)」を製作します。
- ② 異世代教師たちが「現場の経験」を交流するオンラインワークショップを定式化します。
- ③ ①をWEBシステムとして実装し、若手教師の学びを提供するオンラインシステムを構築します。

Webサイト開設 **エデュサポネット Educator Support Network**

4

## 研究目的

- 小学校若手教師の学びを支援するWebサイト「エデュサポネット」の質を、評価スケールを用いて検討することを目的とします。
- 「エデュサポネット」が対象するもの：小学校若手教師の学び、小学校若手教師の情緒的サポート・情報的サポート、Web上の人のネットワーク
- 想定する閲覧者：小学校若手教師、若手教師を応援する学校教師
- パソコン、スマートフォンによりウェブアクセスが必要

5

## Webサイト「エデュサポネット」スマホ版の構成



6

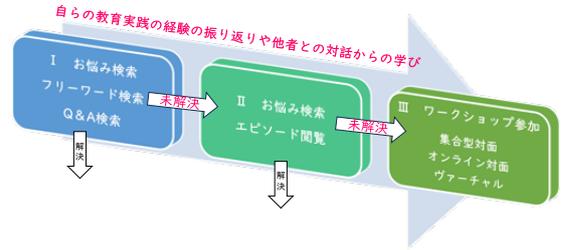
## 「検索による情報提供」の構成

- フリーワード検索から、Q & Aで保護者支援の悩みについての回答を確認し、関連するエピソードを閲覧できます。



7

## Webサイト「エデュサポネット」の目標



8

## 研究方法

- 「エデュサポネット」の質を、モバイルアプリ評価スケール (Mobile Application Rating Scale: MARS\*) の日本語版 (Yamamoto et al., 2022) を用いて評価し検討しました。MARSを使用する際に、「エデュサポネット」の評価に適した質問項目22問の選択と、質問文の一部修正を行いました。
- \*MARS: メンタルヘルスアプリ等の質を評価するスケールとして、2016年に Stoyanovらによって開発された (Shinohara et al., 2022)。

9

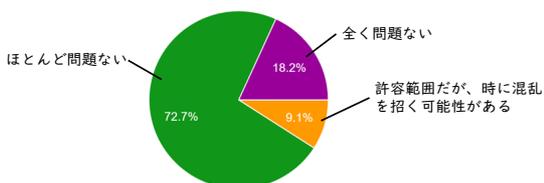
## 評価手続き

- 評価者は、エデュサポネットの研究協力者である主として小学校教師たち22名です。2023年2月～3月に、オンライン (Zoom使用) で評価を実施しました。
- まず、評価者は「エデュサポネット」の検索方法の説明を受け、次に約15分間、コンテンツを使用し、機能を試しました。
- 最後に、Googleフォームを使ってMARSへの回答を行いました。

10

## 結果 客観的品質 (愛用度、機能性、見た目・デザイン性、情報)

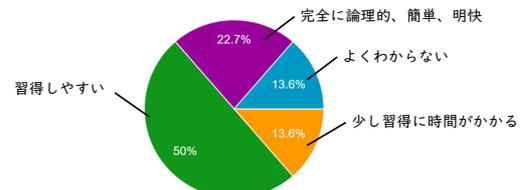
- 愛用度 (エンゲージメント)
- Q コンテンツ (視覚情報、言語、デザイン) は若手教師、そして若手教師を応援したいと考える教師たちに適したものでしょうか?



11

## 結果 客観的品質 (愛用度、機能性、見た目・デザイン性、情報)

- 機能性
- Q ナビゲーション: 画面間の移動が論理的/正確/適切/中断されないか、必要な画面へのリンクがすべてありますか?

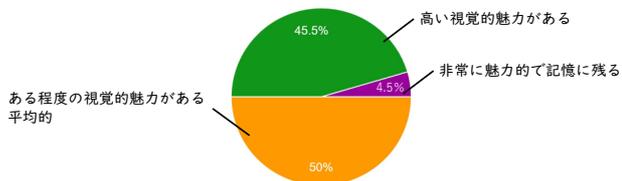


12

## 結果 客観的品质（愛用度、機能性、見た目・デザイン性、情報）

### ・見た目・デザイン性

・Q 見た目の良さはいかがでしょうか？

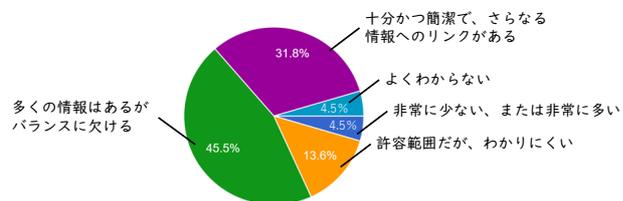


13

## 結果 客観的品质（愛用度、機能性、見た目・デザイン性、情報）

### ・情報

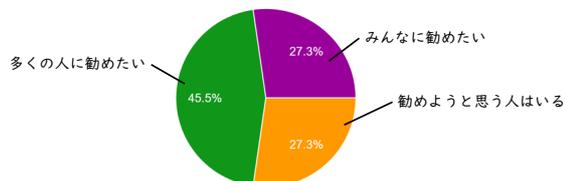
・Q 必要な内容が網羅されていますか、包括的かつ簡潔に記述されていますか？



14

## 結果 主観的な品質

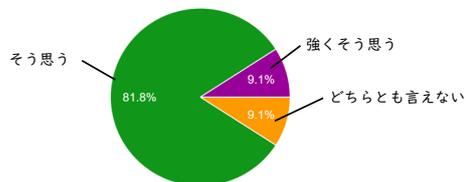
・Q 役に立ちそうな人たちに対して勧めたいと思いますか？



15

## 結果 知覚的なインパクト

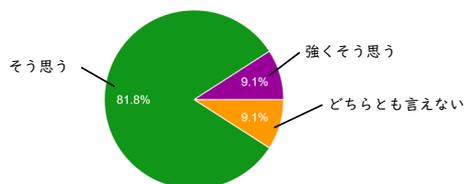
・Q 「エデュサポネット」を使用することで、若手教師が保護者支援に取り組むモチベーションを高める可能性がありますか？



16

## 結果 知覚的なインパクト

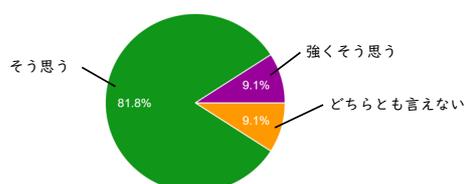
・Q 「エデュサポネット」を使用することで、若手教師が保護者支援の質を高めることができますか？



17

## 結果 知覚的なインパクト

・Q 「エデュサポネット」を使用することで、保護者支援に困っている若手教師を支えようとする教師たちが増えると思いますか？



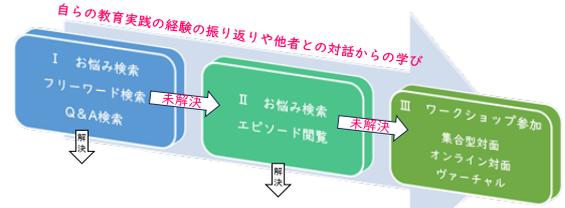
18

## 結論

- 1 愛用度及び見た目・デザイン性は、概ね肯定的な評価が得られました。
- 2 ナビゲーション（機能性）は、習得しやすいと評価された一方で、混乱する、習得に時間がかかると評価されていることがわかりました。
- 3 情報は、多くの情報があるもののバランスに欠ける、わかりにくいと評価されていることがわかりました。  
⇒ユーザビリティ（使いやすさやわかりやすさ）の向上を必要とします。  
※改善事項：フリーワード検索で、「発達障害」等、一般的に使用頻度の高いワードを入力して検索しても、「ヒットしない」→検索ワード、Q&A、エピソードの紐づけを再検討
- 4 知覚的なインパクトは、概ね肯定的な評価となっていました。  
⇒若手教師の学びを保障する、そして、Web上の学校教師たちのネットワークの構築に寄与できる可能性を、「エデュサポネット」が有することがわかります。

19

## 今後の課題



- ・「検索による情報提供」のエピソード数を増やす
- ・より具体的な対応方法を知りたい場合は対面やオンラインのワークショップへの参加につなげる（他者との対話からの学び）
- ・「自分だけでなくみんなも悩みながらやっているんだ」（普遍的課題）と気づくことによる心の負担の軽減になる

20

## 引用文献

- ・中央教育審議会(2022)「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの実現に向けて(審議のまとめ)
- ・Shinohara, Y., Yamamoto, K., Ito, M., Sakata, M., Koizumi, S., Hashisako, M., Sato, M., Wannous, M., Stoyanov, S.R., Nakajima, J., & Furukawa, T. A. (2022) Development and validation of the Japanese version of the uMARS (user version of the mobile app rating system). *International Journal of Medical Informatics*, 165. <https://doi.org/10.1016/j.ijmedinf.2022.104809>
- ・植木克美(2020) 熟達教師の「経験知」をWebで若手教師に伝える 渡部信一(編) AI時代の教師・授業・生きる力 (pp.24-46) ミネルヴァ書房
- ・Yamamoto, K., Ito, M., Sakata, M., Koizumi, S., Hashisako, M., Sato, M., Stoyanov, S. R., & Furukawa, T. A. (2022) Japanese Version of the Mobile App Rating Scale (MARS): Development and Validation. *JMIR Mhealth Uhealth*, 10(4), e33725. <https://doi.org/10.2196/33725>
- ・附記: JSPS科研費19K02995及び22K02797の助成を受け、北海道教育大学研究倫理委員会の承認を得ています。

21

北海道教育大学 2024.02.12.

基調講演

「仮想空間」の中で、  
「アバター」として活動することって？



教育学者／東北大学名誉教授  
渡部信一



植木先生のプロジェクト  
若手の現役教師を支援

- 1 対面ワークショップ
- 2 テレビ会議ワークショップ
- 3 仮想空間ワークショップ

★ EduSapNetは、若い先生を応援する「Web上の人のネットワーク」です！  
「保護者支援とともに学ぶ教育者ネットワーク、遠隔EduSapNet-Educator Support Networksは、保護者の方をサポートする力を養いつつ新しい考えを育む学校の先生たち、特に若い先生たちを支援しようとする教育者たちのネットワークです。  
これまで取り上げた「人のネットワーク」も、類似「Web上の人のネットワーク」にまで発展して試みています。  
★若い先生の学びをサポート  
学校の先生にとって保護者の皆さんは子どもと共に居てほしいパートナーでも、先生たちは保護者の皆さんと信頼関係を結びたいと考えます。そして、先生は保護者の皆さんと良好な関係を築くことで子どもたちが学習生活を楽しんで通学学習を続けていくことを目指しています。



「メタバース内でのワークショップ」 現在進行中・2025年まで継続予定

メタバース 仮想世界



あらためて・・・

「仮想空間」の中で、  
「アバター」として活動することって？

考えてみたいと思います。

分身ロボットカフェ



出典 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000053.000019066.html>



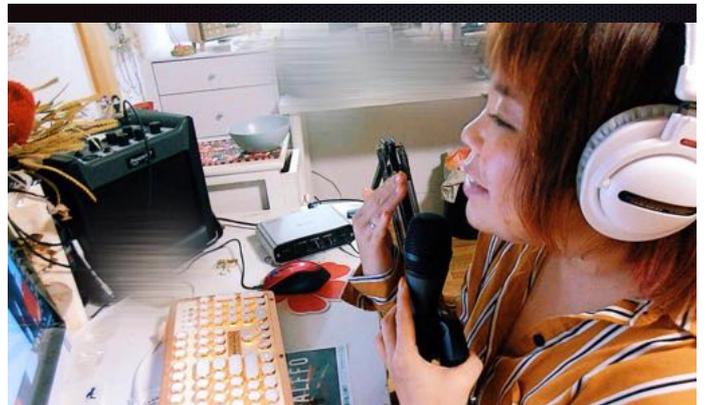
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000053.000019066.html>



<https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2019/156332>  
 and\_source=1aacid-CjwKCAIPZiBhKxwAc5lnkhuZEAom9K1YXW0u0H\_7umw5y1BRaM\_wrcy6IKKqPvKsDAU9KnoCtsQdD\_Dwf



<https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2019/156332>  
 and\_source=1aacid-CjwKCAIPZiBhKxwAc5lnkhuZEAom9K1YXW0u0H\_7umw5y1BRaM\_wrcy6IKKqPvKsDAU9KnoCtsQdD\_Dwf



2017年に脊髄炎を発症し足が動かせなくなったKさん

<https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2019/156332>  
 and\_source=1aacid-CjwKCAIPZiBhKxwAc5lnkhuZEAom9K1YXW0u0H\_7umw5y1BRaM\_wrcy6IKKqPvKsDAU9KnoCtsQdD\_Dwf

仕組みは簡単・・・

ストレスのない  
ロボット操作による  
業務負担低減

操作精度向上による  
適用領域の拡大

大容量低遅延なネットワークによる  
タイムラグを感じない映像・操作信号伝送



2つの「現実世界」をインターネットで結ぶ  
「障害者福祉」の話として終わってしまうことが多いのですが・・・

出典 NTT  
<https://group.ntt.jp/newsrelease/2021/06/17/210617a.html>

実は、このプロジェクトの参加者の中には・・・



生まれた時からほとんどの生活がベッドの上

出典 NHK



<https://logmi.jp/business/articles/325622>

彼にとっての「現実」は、ベッドの上  
彼にとって「カフェ」とは？



<https://logmi.jp/business/articles/325622>

生まれた時からベッドの上で生きている彼にとって、  
「カフェ」は「非現実」かも？



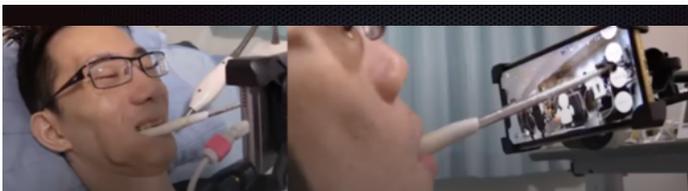
<https://logmi.jp/business/articles/325622>

生まれた時からベッドの上で生きている彼にとって、  
「カフェ」は「非現実」かも？

でも、1ヶ月の経験を積めば、「現実」へ



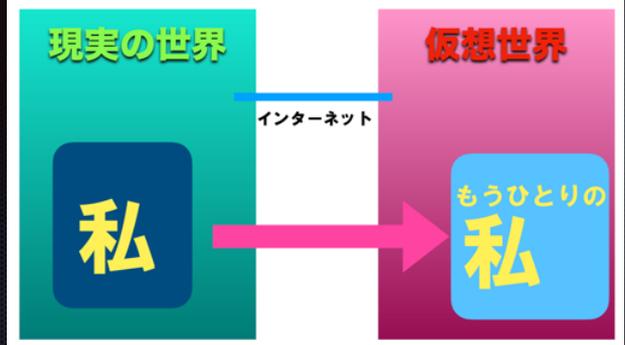
彼は「2つの世界」で生きている！！



あるいは「カフェの世界」が主かも・自己実現



カフェの世界でイキイキと生きる！



「仮想世界（メタバース）」の中で、  
「アバター（もうひとりの私）」として生きる！

・・・ありだよねえ

でも、子どもたちや若者が  
「仮想世界」に依存してしまうことに対しては・・・

「つらい現実」から逃避して

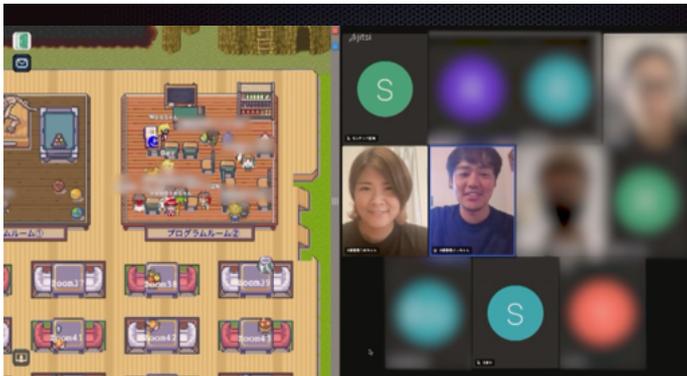
「仮想世界」で生きてゆくことは、

「悪いこと」ですか？



不登校の子どもたち 新たな居場所は“メタバース”

<https://www.nhk.or.jp/minplus/0012/topic031.html>



現在はまだ「ゲーム」のような教室だけ、すぐに・・・

<https://www.nhk.or.jp/minplus/0012/topic031.html>

「学校には通えないけど、メタバース登校なら毎日できる」  
「前よりは、勉強が好きになった気がする」  
「ちゃんと夜早く寝て、朝早く起きるようになったのが最大の変化」



子どもや若者の多くが「仮想世界」で  
一日の大半を過ごしている



ゲーム = 仮想世界

マイクラ

子どもたちの「リアリティ」は、現実世界よりも  
「メタバース（仮想世界）」の中にあるのでは？



スプラトゥーン3

あらためて・・・

**「仮想空間」**の中で、  
**「アバター」**として活動することって？



渡部信一の本  
『教育とAI』シリーズ

ご清聴に感謝です。

## エデュサポネット中間報告&ワークショップ 参加メンバー感想

### I 基調講演・意見交流

渡部信一先生（東北大学名誉教授）

「『仮想空間』の中で『アバター』として活動するって？」

○時間や移動に制限のある方にとって有効な方法だと考える。また人とのコミュニケーションや対面での活動に苦手意識を持つ不登校や発達障害の子ども達にとっても参加しやすい方法であると思う。一方で、対面で会話やコミュニケーションをする機会も持ってほしいと願うのが教育者として、また母親として願うところである。

○メタバースがいいとか悪いとかではなく、困っている児童生徒をどうするかを教師は考えるべきだと思いました。学校はこうあるべきではなく、児童生徒にとってよりベターな方法を考え実行する教員でありたいと思います。哲学者のお話に興味がありました。ありがとうございました。

○教育で言うと、今が過渡期なのかなと感じました。人と対することで社会性や人間性を学ぶのが学校なのかなと思いますが、不登校だったり、自分の表現が表立って出来ない子にはアバターという存在が1つの自分になるのだなと思いました。現実の私と仮想世界の私はどちらも私ですが、それを教育の現場でどう扱うかはまだまだ追いついてないんだなと思いました。考えれば考えるほど難しいと感じてしまいますが、とても興味深く、面白かったです。

○分身ロボットカフェの取り組みは、障がいのためベッドの上が生活の場だった方にとって、活動の場、可能性の場が広がり、人とのつながりができる素晴らしい取り組みだと思いました。障がいがあってもなくても、共に働く場があることが普通の世の中になってほしいです。教育の場への導入は、渡部先生がおっしゃっていた「どんどん進んでいくことを前提として考えていかなければならない」という言葉が印象的でした。もう追いついていけないと感じ否定的にも考えていた私ですが、そんな場合じゃない、もうスタートは切られているのだと認識を改め、しっかり考えていかなければならないと思いました。また、現実の「私」も分身の「私」も対等な価値観を持った「私」であるという考えに共感しました。全く違う自分を生きてみたいという願望はあって当然だし、その願望も含めて「私」なのだと思います。そのことを自覚していることが大切なのだと思いました。

○教職員として、今後仮想空間の中で子どもたちを支援していくにはどのように支援できるか、また活用していくことができるのか、という質問がありましたが、それに対しての渡部先生のお言葉がすごく腑に落ちました。

これから広がりを見せていくであろう仮想現実の世界を、教育としていいか悪いかの議論が必ず出て話し合われていくことになる、それに対して現実や時代の流れで子どもたちにとって何がベストか選択していくことが教員にとっての支援になるとのお言葉に、子どもの支援とは選択肢を与え、導き、支えることも教育だったと思いを返しました。

選択肢に仮想空間という一つが加わることに未知への恐怖はありますが、それを見極めること、機会を提供し支援することに目を背けることなくチャレンジしたいという気持ちが芽生えました。

○仮想空間の利用が広がっていくのは時代の流れと理解できるものの、変化になかなかついてゆけない硬い頭の自分を感じました。だからこそ、渡部先生は今できることやその時のベストを考えていらっしゃるんだと感じました。これまでの教育の在り方や大事にされてきたものと現実世界に生きる子ども達や時代が求めている教育の在り方や大事にしていくべきことを、このような機会を通してみんなで考えていくことはとても貴重だと思いました。

## 2 ワークショップ

○現地に行くことは難しかったので、ズームで参加できて良かったです。また、なかなか話しづらい内容を聞いてもらったり、なかなか聞けないお話を聴くことができよかったです。

○今回のテーマが保護者支援ではなかったことで、新しい視点での交流ができました。参加された先生たちの、いつもと違う一面も見られました。顔なじみということもあって、リラックスした愉快で温かい時間でした。顔ぶれを見て話そうと思っていた内容を変更した方もいて、経験年数が多い先生のみグループのよさが発揮されたと思います。世代が同じグループというのもいいものだと思います。

○ワークショップでは、いつも元気になります。子供と向き合うには、教材の準備が必要ですが、目には見えない気力も必要です。対話をすることで、何を頑張るのか、イメージすることができました。

○えんたくんを囲み3人という小さなコミュニティで話をするすることで、とても話し

やすく、また表情や感情の動きもわかりやすかったです。

私は紙に書くことでお聞きした話への自分の考えをまとめていましたが、もっと意見の共有ができるような書き方もあったのではないかと思います。

テーマが「子どもとのかかわり」でしたが、先生方が子どもたちの問題の解決にどう導くか、どのような道筋をつけてあげるのかを考えることは、子どもたちの未来を尊重することにもなり、親も間接的にサポートすることにもつながっていると実感しました。

経験豊富な先生方が、「どうすべきか」と一生懸命に同じ方向を向いて考えてくださったことにとても感激しましたし、感謝しかありません。

私はまたワークショップで様々な先生方と交流してみたいと思いましたし、たくさんの先生方にまず話をしてみてほしいと思いました。



# エデュサポネット中間報告 & ワークショップ

2024/2/12 13時～16時  
札幌市産業振興センター

現職教師に対する再教育のための「オンラインシステム」の構築と効果検証  
(科学研究費 基盤研究(C) (一般)  
22K02797 研究期間2022年度～2025年度)

## 本日のタイムテーブル 第I部

会場とオンラインのハイブリッドで実施します！

13時 ～ 13時35分 参加者自己紹介, 研究中間報告

13時30分～14時20分 基調講演・意見交流  
渡部信一先生 (東北大学名誉教授)  
「『仮想空間』の中で『アバター』として活動するって？」

※子どもや若者が、「仮想空間」で一日の多くの時間を過ごしていることを取り上げます。そして、子どもたちや若者たちが「現実世界」から逃げてゆくとき、私たちは何を考え、どうしようとするのでしょうか…みなさんで考えてみませんか？ 仮想空間ワークショップの延長線にある教育テーマです！

## 本日のタイムテーブル 第II部

14時30分 ～ 16時 ワークショップ

※今回は「子どもとのかかわり」(対面ワークショップ)と「同僚とのかかわり」(テレビ会議ワークショップ)にテーマを広げて語り合いたいと思います。



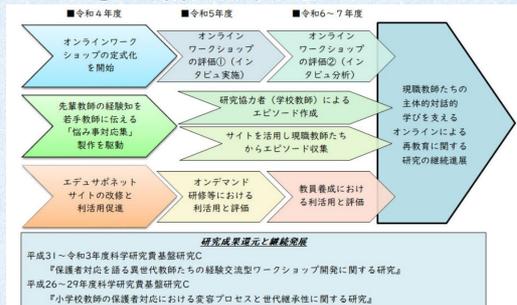
# エデュサポネット Educator Support Network

保護者支援をともに学ぶ教育者ネットワーク

## エデュサポネットの目指すこと

- 若手教師が他の教師と対話しながら経験知を体得する学びの機会を保障し、世代の異なる教師たちがいつでもどこからでも気軽に主体的・自律的に学び続けられる環境を整備することを目指しています。
- 経験知～保護者支援
- 情緒的サポート&情動的サポート&ネットワーク

## 【研究課題】現職教師に対する再教育のための「オンラインシステム」の構築と効果検証



## エデュサポネットの活動

①教師の世代生成、異世代交流を促進するオンラインワークショップをパッケージ化し、対面によるワークショップとのハイブリッド形式を定式化します。

②先輩教師の経験知を若手教師に伝える「悩み事対応集」を制作し、サイトに公開します。

エデュサポネットHP  
<https://www.edusupp.jp>



## ワークショップ 開催方法：3タイプ



対面ワークショップ



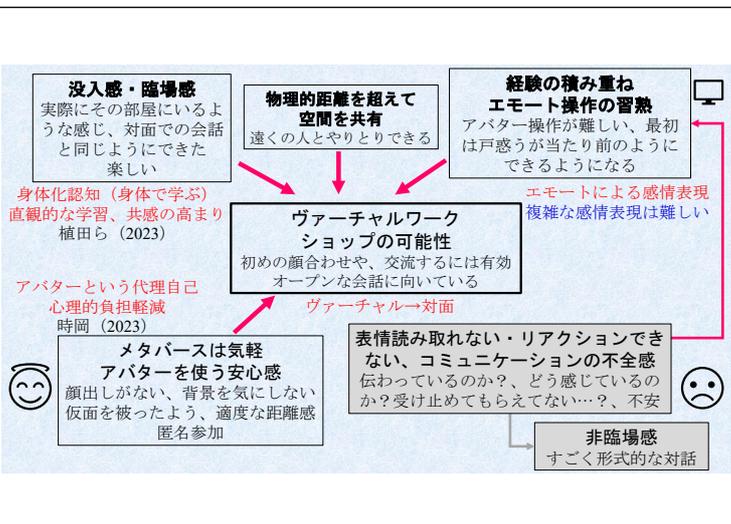
テレビ会議ワークショップ



仮想空間ワークショップ

書籍提供 © Virbela 日本公式販売店  
株式会社ガイアリンク

所要時間	180分	105分	90分
準備		参加者に事前にシートへの記入を依頼	参加者に事前にシートへの記入を依頼



## エデュサポネットの未来予想図



## 異世代の先生たちがともに学ぶコミュニティ

学校の先生たちは、お互いに経験を語り合うことで課題を解決します。複雑で多様な難しさを抱える保護者の方をサポートし、保護者の皆さんと良好な関係を築くために、先生たちが知恵を出し合って考えていく必要があります。孤軍奮闘する若い先生たちが学びたいと考えたときに学べる教師コミュニティを保障する必要があります。

そこで、エデュサポネットEducator Support Network では、次の2つのことに取り組み、若い先生を応援します。

### 取り組み1

保護者支援を語り合うワークショップ開催

- ① 集合型対面ワークショップ
- ② 会議アプリケーションを用いたワークショップ
- ③ メタバースを用いたヴァーチャルワークショップ

### 取り組み2

エデュサポネットホームページの製作

- ① 保護者支援に関する悩みごとの教材集
- ② 保護者支援に関するお悩みQ&A / エピソード

研究代表者 植木 克美

北海道教育大学大学院 教育学研究科 教授

保護者対応を語る異世代教師たちの経験交流型ワークショップ開発に関する研究 (科学研究費助成事業 JSPS 科研費 19K02995 (平成31~令和3年度))

現職教師に対する再教育のための「オンラインシステム」の構築と効果検討 (科学研究費助成事業 JSPS 科研費 22K02797 (令和4~7年度))



## エデュサポネットホームページ

<https://www.edusupp.jp/>

- ① 保護者支援に関する悩みごとの教材集
- ② 保護者支援に関するお悩み Q&A
- ③ ワークショップご案内



## 関連ホームページ

コミュニケーション&テクノロジー研究所

<https://www.watabe-lab.com/commutech/>

## 問い合わせ先

保護者支援をともに学ぶ教育者ネットワーク  
エデュサポネット Educator Support Network  
研究代表者 植木 克美 (北海道教育大学)  
[ueki.katsumi@s.hokkyodai.ac.jp](mailto:ueki.katsumi@s.hokkyodai.ac.jp)

2023年11月発行

# エデュサポネット

Educator Support Network



将来は教師を目指しているジュリさん。今回、初めて「ワークショップ」に参加する。

保護者支援に困っている若い先生を応援！

異世代の先生たちがともに学ぶコミュニティ



<https://www.edusupp.jp/>

## 保護者支援に困っている若い先生を応援します！

『保護者支援をともに学ぶ教育者ネットワーク』、通称エデュサポネットEducator Support Networkは、保護者さんをサポートする力を身につけたいと考える小学校の先生たち、特に若い先生たちを応援しようとする教育者のネットワークです。これまで創り上げた「人のネットワーク」を、現在は「Web上における人のネットワーク」にまで発展させて試みています。

先生にとって保護者の皆さんは子どもを共に育てていくパートナーです。ですから、先生たちは保護者の皆さんと信頼関係を結びたいと考えます。そして、先生は保護者の皆さんと良好な関係を築くことで子どもたちが学校生活を安心して送り、学びを深めていくことを理解しています。

今日、未来を担う子どもたちの成長を支えるために、学校と地域社会、そして家庭との連携・協働が必要とされます。しかし、地域の結びつきが弱くなり、経済的に困窮している、保護者の方に心身の疾患がある、等のことで子育てに難しさを抱える家庭が増えています。そして、子どもが学習につまずいている、友達との関係をうまく結べない、登校をしづらといったことで悩みを抱える保護者の方がいます。このような状況にある保護者の方々とのかわかり、先生はどのように進めていったらよいのでしょうか。

エデュサポネットは、保護者とのかわかりを先生たちで知恵を出し合って一緒に考えていく「人のネットワーク」です。

## エデュサポネット members

 <p><b>kuko</b> 小学校教諭として、30数年勤めています。個性豊かな子どもたちと、保護者の方々の関わりを楽しんでいます。学校心理士、公認心理師の資格もっています。</p>	 <p><b>シゲン</b> 特別支援学校勤務(知的、病弱、肢体不自由)、教職経験20年目です。</p>	 <p><b>ボル</b> 新職21年です。中学校3年、小学校17年の勤務を経て、現在は小学校教諭になりました。大学院では「教員の同僚性」について研究しました。学習意欲の低い職場は学校のチーム力を高めると感じています。公認心理師です。</p>	 <p><b>らんちゃん</b> 教職35年。現在養護教諭です。学校心理士、臨床発達心理士、ガイダンスカウンセラー、公認心理師、保育士ですが、臨床発達心理士のマインドを一番大切にしています。</p>	 <p><b>ゆいまる</b> 現在、臨床心理学を学ぶ大学院に在籍しています。学生の傍ら小学校での支援員、幼稚園での預かり保育の仕事をしており、また、大学院修了後は小学校教諭として働く予定です。日々、子どもたちと関わる楽しさや喜びを感じる毎日です！</p>	
 <p><b>はむこ</b> 小学校に32年間の勤務経験があります。</p>	 <p><b>カトウ</b> 小学校教諭、教職経験6年目です。</p>	 <p><b>熟年ミッチー</b> 特別支援学校担任を36年勤め、10年間は、特別支援教育コーディネーターをしていました。現在は、大学及び大学院の教員をしています。</p>	 <p><b>わっきー</b> 小学校教諭を志す、大学院生です。自分のことも他人のことも認め合える世界をつくりたいと願っています。現在は「セルフ・コンパッション」の研究をしています。</p>	 <p><b>のっぽ</b> 教職経験38年目。この間、公認心理師・学校心理士・臨床発達心理士の資格を得て、現在は子ども達の発達にかかわる仕事をしており、</p>	
 <p><b>ベル</b> 小学校に長年勤務しています。子どもと一緒に遊べるように体力維持に努めています。宜しくお願いします。</p>	 <p><b>まごびこ</b> 小中学校で通常級・支援級・通級の経験があります。大学院で「保護者との関係構築」について研究しました。</p>	 <p><b>すじこ</b> 小学校の特別支援学校担任です。教職経験8年目になります。</p>	 <p><b>みかん</b> 私は特別支援学校・学校に勤務してきました。教職歴は34年になります。新しい気付きを見つけていきましょう。</p>	 <p><b>ユッキーK</b> 小学校教員を37年勤め、担任、特別支援教育コーディネーター、教頭、校長とそれぞれの立場から教育活動に携わってきました。この経験を活かして、皆さんと学びを深めていきたいです。</p>	 <p><b>くま</b> 小学校特別支援学校の担任を十数年しています。家庭との連携を大切にしながら指導にあたってきました。みなさんで経験を共有できればと思います。よろしくお願いします。</p>
 <p><b>きみどり</b> 小学校教職歴5年目です。色々な保護者の方と出会い、日々、勉強しています。エデュサポネットを通して、自分自身を振り返れるといいなと思います。</p>	 <p><b>りょうちゃん</b> 中学校教師を経て、現在幼稚園園長です。大学院で学校臨床心理学を学び、公認心理師の資格を得ました。絵本による保育の大切さを実感しています。</p>	 <p><b>セージ</b> 小学校で勤務しています。現在、14年教師をしています。これまでの経験を生かしていければと思っています。</p>	 <p><b>みっちゃん</b> 教職30年目になりました。特別支援学校担任15年、通常級担任15年、特別支援教育コーディネーター10年を経験し、学校心理士の資格をとりました。現場の経験を皆さんと交流し、新たなステップを学びたいと思います。</p>		
 <p><b>たけちゃん</b> 大都市の小学校で勤務しています。教職経験11年目です。明るく元気な」をモットーに、日々、子どもたちが元気に過ごせるように努めています。</p>	 <p><b>clovernnyanko</b> 小学校教諭で特別支援学校(18年)、通常級(15年)を経験し、退職。退職し、違った角度から学校を見つめ、大学院で学ぶことで得られる気づきがあります。</p>				

研究代表 植木 克美 北海道教育大学大学院 教育学研究科 教授  
研究協力 渡部 信一 教育学者・東北大学名誉教授  
中島 平 東北大学大学院 教育学研究科 准教授  
山本 愛子 北海道文教大学・大学院 こども発達学研究所 准教授

## ジュリさん

エデュサポネットのメインキャラクター  
将来、教師を目指し勉強中



イラスト 尾上 樹里  
(北海道教育大学 大学院生)